



アクティビティ



大 曲

各企業の安定経営の為に

2023年3月13日に第1回講座「会社の健康診断基礎編」を開催いたしました。未会員を含め16名のご参加をいただきました。「会社の健康診断していますか？」をテーマに2カ月間で全4回の講座です。皆様もご自身の健康維持の為に定期的な健康診断を行い、必要であれば治療や生活習慣の改善の指標にされていると思います。そこで、仙北市倫理法人会会員でもある中小企業診断士「はーとBis代表」松館文子氏に税理士等とは別の切り口で経営分析の方法を知り、各社の更なる発展を目的に開催しました。

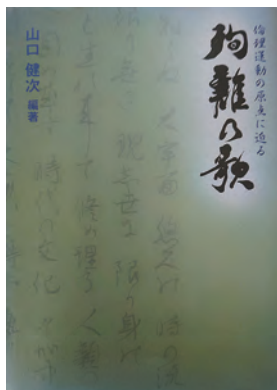
第1回講座では、貸借対照表と損益計算書をもとに会社の健康診断を行う際の数字の見方を分かりやすく伝えて頂きました。また、損益計算書の数字の比較で、その企業がどのような事業形態を行っているのかをクイズ形式で出題していただき楽しみながら学ぶことができました。

第2回講座は会社の健康診断実践編となり、自社の決算書を基に健康状態を各々が把握します。第3回講座は、第2回の健康状態を基に健康状態の維持や改善に必要なことを検討します。そして、4月24日に行われた第4回講座は、実践に向けて決意表明を行い、各企業の発展に生かして頂きたいと思います。

大曲倫理法人会 広報リーダー 二方淳介



書籍紹介



※先日、仙北市の倫理経営講演会後、講師の高橋哲也研究員に（当時研修生）聞いたら、本書はすでに絶版になっているそうです。（残念）

私の倫理愛読書

倫理運動の原点に迫る 「殉難の歌」

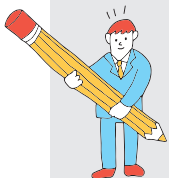
「殉難の歌」は丸山創始者が裁判事件の一審の判決後、献身的な弁護活動をしてくれた弁護士5人へのお礼に「殉難の歌」と題する長歌に詠んで、書作品に仕上げ贈呈した。

本書は富士高原研修所の研修生5名が研究発表したものを山口健次施設長（当時）が編集した1冊である。

平成23年に初めて富士研セミナーへ参加した時に購入、それ以降自身に何か問題（苦難？）があれば本書を開き、勇気を頂いております。

最初に全文がのっていて読んでもほとんど理解できなかったが、現代語訳、語句の解釈、人物解説があり少しは理解する事が出来ました。最後に解題として、当時の裁判のようす等の解説があり、倫理運動の原点を知る上で、創始者の思いに少しでもふれる事ができる1冊だと思い、本書を紹介しました。

秋田県倫理法人会 幹事長 堀 茂



編集後記

『役が人を育てる』

この度は、堀さん、二方さん、お忙しい中時間を割いてご寄稿していただき感謝申し上げます。そして、船木さん、戸嶋さんお二人には、快く取材を受けて下さり、また温かく迎え入れて頂き誠にありがとうございました。

記者経験が30年の大ベテランの船木さんに、私が書いた取材原稿を添削していただく時は、かなりドキドキでした。取材しているときの会話は楽しく、またアドバイスなども頂き大変有意義でありました。

この機会でなければ、他所の朝礼を拝見させて頂くという事はないので、大館工芸社さんへ何うのはとても楽しみでありました。曲げわっぱで作られたぐい呑

みとコーヒーカップを購入し、二ツ井町のどぶろくを味わいました。

活力朝礼の取材前に、大館市倫理法人会のMSに行きました。講師は中西浩名誉研究員で、テーマは『足下を掘れ』。講話の中の「不幸も劣等感も、自他の比較からくる。受容れて自分の中を掘り下げる。」が印象的で、なるほどと思いました。

『役が人を育てる』という言葉は、広報誌の取材などからも、いろんな方々と出会い、学びと体験をし、成長させて頂く事も含まれていると思っております。渡部広報委員長、役目を頂き感謝申し上げます。

湯沢市倫理法人会 広報リーダー 泉谷将彦

RINGS

心を合わせ叶えよう秋田の願い ゆるがぬ千社

秋田県倫理法人会では、心の経営を目指す人々のネットワークを広げる活動をしています





心の経営探訪

日々好日・反始慎終 倫理実践の力、己自身を正して経営改革する

株式会社 エフエム秋田 代表取締役社長 船木保美さん
(秋田山王倫理法人会 会長)

秋田県秋田市八橋本町3丁目7-10
TEL:018-824-1155 FAX:018-823-7725

船木さんは、2020年エフエム秋田の代表取締役社長に就任されました。その年に秋田山王倫理法人会に入会され、間もなく会長になられました。倫理の学びと実践について取材をさせていただきました。

魁新報社からエフエム秋田へ

エフエム秋田に入社する前は、秋田魁新報社に40年ほど勤めておりました。

記者時代が30年、今振り返ると記者をしていた時は苦労したけど楽しかったです。今でもやりたいと思うくらいです。しかし社会部長や政治経済部長時代は短気な性格もあって部下から見れば、ちょっと敬遠したい存在だったのかなと思います。

それから取締役となり専務で退職した後、エフエム秋田の代表取締役社長に就任しました。



倫理法人会での学びが大きく変えた

入会して丸3年、倫理法人会での学びは誠に大きいと思います。いろいろな会員の方々との出会いで気付いたことは、会員社の社長さんが経営で相当苦労を重ね、汗をかいておられるのがわかります。自分自身、経営者としてはぬるま湯に浸かっていたんだなと感じました。

『万人幸福の葉』は、内容が全て正しいと思います。なかなかその通りには出来てはおりませんが、それでも少しでも日常心がけて実践しております。必ず良い方向へ回ってくると感じております。

葉の中の『今日は最良の一日、今は無二の好機（日々好日）』 — 気づくと同時に行う。ずぼら者、ぐずつく人、これは皆「今」をとりがず人。光陰矢の如し。気づいた時、氣がるに、喜んでさっと処理をする。 — この言葉に感銘しております。行動する際に頭に浮かびます。

魁新報社の時は、経営が安定して黒字だったので、あまり経営的に悩むことはありませんでした。ところが私が入社する直前のエフエム秋田は、7年連続赤字経営の会社でした。

黒字化へ改善するには、まず自分自身が変わらなければなりません。そこで始めたのは社員の先頭に立って営業回りをスタートさせたことです。県内のあっちこちに記者時代からの人脈を頼ってコマーシャルのお願いに回りました。

倫理法人会提供の「ココロの葉」という番組をはじめ、「秋田銀行 presents クラシックの扉」や、SDGsを考える「あきたSDGsラジオ」、「さらさ☆福祉ラジオ」など新しい番組を作り、定期的な収入につなげました。



おかげさまで就任して2年目の昨年3月期で黒字に転換することが出来ました。しかし、黒字になったとはいえ油断はできないのです。安穩としていると、すぐに落ちてしまうので気を引き締め、常に売り上げをしっかりと見ないといけないと思っています。

『本を忘れず、末を乱さず（反始慎終）』の中にある、 — 小さい事に末を乱す人は、大切な事に終わりを全うしない。その極は悲惨な死様をすることにさえるのである。 —

私は結構小心なため、小さい事で末を乱すタイプだと思います。短気で、やや心が弱いから小さな事に対しても動揺してしまいます。魁時代は物事が自分の思うように行かないと、カッとなりやすく、社員を叱ってしまう時がありました。1～2日ほど置くと、なんである時あんな怒り方をしてしまったのだろうと反省をすることが多々ありました。

最近では、葉の言葉が心にあるので、少々的小事では怒ることは無くなったと思います。上手く出来ない社員にも優しく声をかけたり、飲みものにケーションを図ったりして気に掛けるようにしました。すると社員は自然と出来るようになってきたのです。仕事が出来ていない事を責めるのは簡単ですが、自身の気持ちを正して応じていくと、少しずつ変わってくるようになりました。改めて、倫理の実践とはすごい力なのだと感じております。



今やりたいこと、続けたいことは何ですか？

私の今1番の仕事は、なんとかして社員の給料を上げることだと思っています。今年4月から全員昇給させました。また、昨年から物価上昇しているので、インフレ手当を11月からスタートし、前期は黒字でしたので期末手当も出しました。

社員教育として活力朝礼はやりたい気持ちはありますが、出社時間が3段階違うので今現在は断念しております。『職場の教養』は社員に配り読んでもらい、社員からは良い冊子だと好評です。

経営は大変ですが、倫理の学びのお陰もあって、過ぎ去ったことはくよくよしないで、前向きに歩いて行こうという気持を持つようになりました。自分自身、相当変わったなと感じています。

倫理経営が私の基本姿勢であり、「日々好日」を胸に刻みながら会社を運営してまいります。

学びと実践が、船木さんご自身や社員との関り、会社の運営まで変化させていることに倫理実践のすばらしさを感じました。

活力朝礼は、 会社のブランド力 への源

株式会社 大館工芸社
代表取締役 戸嶋一之さん
(大館市倫理法人会 副専任幹事)



大館工芸社さんの活力朝礼を取材させて頂きました。朝7時50分から始まり、コの字型に整列されて、ピリッと引き締まった雰囲気の中で活力朝礼を行われておりました。

戸嶋さんは、平成30年頃に横手市倫理法人会に入会。その時は秋田銀行西馬音内支店に勤務されていて横手で2年、大館工芸社に入社して大館市倫理法人会では3年目になるそうです。戸嶋さんに活力朝礼について伺いました。

入社前から活力朝礼を取り入れていた



私が入社する以前、平成16年から社員教育の一環として、活力朝礼を始めていました。始めた頃は、合わないということで数人やめられた人がいたようです。

強制感を感じてしまったのではないかと思います。

私自身も当初は迷いながらだったのですが、だらだらしない為にもまた、スイッチを入れてもらうというのもあって続けています。

基本的に『職場の教養』を中心にして毎日朝礼をしています。そのほかに週1回、「万人幸福の葉」の輪読も行っています。

工夫と継続することで、変化する

当社社員は、モノづくりの職人がほとんどなので、話すことが苦手な人も多いです。

基本を省かずいろいろ工夫をして、業務にも負担かけないようにコンパクトにし、挨拶や体操も繰り返していきことで、慣れてもらっていききました。継続することによって、次第に各々が皆の前で話せるようになってきたと思います。

朝に声を出すことによって、これから仕事をするのだという気持ちの切り替えになっています。

毎日の実践が、お客様への対応にも生きる

活力朝礼をやっている良かったのは、基本的な挨拶やマナーが持てることだと思います。工場見学など来られるお客様などへの対応にもそれが出てきていると思います。

たとえ良いものを作っていたとしても、職場の対応が悪いと全てが台無しになってしまいます。

しっかりと声を出して挨拶をするという事は、お客様の印象として、とても大切だと思います。「ここで買いたいな」と思っていただけたところにも繋がっています。

そして、会社のブランドはみんなで作っているんだという意識の共有にも繋がっています。

この後、工場見学もさせて頂き、お話しの通り気持ちのよい職場の雰囲気を感じながら、大館工芸社さんの匠を見せて頂きました。

